

項目	観点		
<p>1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について</p>	<p>○音楽を愛好する心情を育てるために取り扱う内容は、どのように配慮されているか。</p>	<p>小学音楽音楽のおくりもの(17・教出) ・「全校合唱」として1～6年生まで「音楽のおくりもの」「さんぽ」の2曲がどの学年にも配当されており、学校行事および学年行事等でも音楽活動が楽しめるように工夫されている。 ・高学年の巻頭にあるプロの演奏家からのメッセージが音楽のよさを児童に伝えられるように工夫されている。</p>	<p>小学生の音楽(27・教芸) ・巻頭には「友達」をテーマとした曲、また、巻末には「みんなでたのしく」歌う曲が取り上げられており、友達と共に音楽を楽しめるように工夫されている。 ・楽しみながら音楽表現をしている絵や写真が多用されており、意欲を喚起させられる。 ・2学年ごとに系統的・段階的に題材が構成されており、音楽活動の楽しさや学習する喜びを味わえるように配慮されている。</p>
	<p>○音楽に対する感性を育て豊かな情操を養うために取り扱う内容は、どのように配慮されているか。</p>	<p>・低学年では、覚えやすいリズムカルな曲が多い。遊びながら歌う活動や体の動きを伴った活動が豊富で、動作化によって感性を育てられるように工夫されている。</p>	<p>・表現と鑑賞の学習が相互に関連付けられた題材が多く取り上げられており、効果的に感性が育つように工夫されている。 ・様々な国や時代の多種多様な音楽にふれあうことができるように教材が選定されており、音楽に対する感性を育む効果が期待できる。</p>
	<p>○わが国の音楽文化に愛着をもつとともに他国の音楽文化を尊重する態度を養うために取り扱う内容は、どのように配慮されているか。</p>	<p>・各学年において「にっぽんのうた みんなのうた」として童謡や唱歌などを取り上げ、昔から歌い継がれてきた歌に触れさせる工夫がされている。 ・取り上げられている日本の民謡において、鑑賞と表現とを一体化させた内容が多く、我が国の音楽文化に愛着がもてるように工夫されている。 ・見開きでの写真や説明資料が豊富に掲載されており、我が国の伝統音楽と世界の音楽とのよさが視覚的にも捉えられる配慮がされている。</p>	<p>・低学年の手遊び歌や縄跳び歌などのわらべ歌、各学年で共通教材「こころのうた」や「歌い継ごう日本の歌」として童謡や唱歌などが取り上げられ、世代を超えて日本の音楽文化を共有できるように配慮されている。 ・我が国と世界とでそれぞれ大切に伝えられている楽器の音色の特徴や音楽の雰囲気と比較しながら鑑賞でき、我が国の伝統音楽に誇りをもつと共に、世界の文化を尊重する気持ちを育むことができるように配慮されている。</p>
<p>2 内容の程度及び取り扱いについて</p>	<p><基礎・基本の定着のための工夫> ○表現及び鑑賞の活動に必要な基礎的な能力を培うために、どのような配慮がされているか。</p>	<p>・低学年では、リズムが自然に身に付けられるよう、様々な国のリズムカルな曲を取り上げ、リズム打ちや体を使った表現活動に取り組ませている。また、ことばを使ったリズム遊びやリズムづくりを取り上げることで、音符や休符の習得の定着に向けて工夫されている。 ・各楽曲における指導のポイントがわかるよう、題材とともに共通事項の記載が工夫されている。</p>	<p>・読譜が苦手な児童にも分かりやすいように、音の高低やリズムが図や写真で視覚化されており、基礎・基本が身に付けられるように工夫されている。 ・小学校6年間を通して段階的、系統的に題材が構成され、繰り返しの学習や学びの積み重ねにより学力の定着が図れるように工夫されている。 ・各学年ごとに、巻末に「ふりかえりのページ」があり、身に付けた基礎・基本の定着が一目でわかるように工夫されている。 ・題材ごとに「新しく覚えること」として用語や記号の意味が明示され、基礎・基本が分かりやすい。</p>
	<p><関心意欲を高め・主体的な学習活動を促すための工夫> ○音楽活動の楽しさを体験させ、主体的な学習を促すためには、どのような工夫がみられるか。</p>	<p>・創作活動では、気軽に音づくりやリズムづくりができるよう、音迷路や身近な動物の鳴き声や動きを言葉にあてはめた例などを多く挙げ、興味・関心がもてるようにしている。 ・高学年では、ポピュラーソングが取り上げられており、発達段階に応じた児童の心を揺さぶるように選曲が工夫されている。 ・楽器による演奏のアレンジ例が豊富に示されており、音楽的能力が高い児童には魅力的である。</p>	<p>・個別だけではなく、ペアやグループなど音楽を友達と共有し、楽しみながら学べるような活動が工夫されている。 ・イラストや写真を効果的に配置することで、読譜しやすい楽譜となっており、表現活動に主体的に取り組めるように工夫されている。 ・「目標」「活動」「なりたい姿」がひと目で分かるページの構成になっているため児童が主体的に音楽活動に取り組めるように工夫されている。</p>
	<p><個に応じた指導のための工夫> ○自分の思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成するために、どのような工夫が見られるか。</p>	<p>・特に創作活動では、「音のスケッチ」や鑑賞として、自分の思いを教科書に書き込めるスペースがあり、一人一人の思いが生かせる工夫がされている。 ・リコーダーの運指表や鍵盤ハーモニカの奏法等、大きな写真で掲載されており、大変分かりやすい。</p>	<p>・ダン(キャラクター)が、「～してみるといいね」等、思いや意図に気付くヒントを出しているため、主体的に思考・判断する手助けとなっている。 ・児童の発達段階に応じて、個々の思いや意図を音素材を使って創り出す活動が組み込まれており、無理なく創作活動に取り組めるように工夫されている。</p>

項目	観点		
3 構成・配列・分量	○各学年のねらいや発達段階から見て、教材の構成・配列や内容の系統性については、どのような特色があるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「音楽ランド」「全校合唱」「音のスケッチ」「資料」が、1年生～6年生まで組み込まれ、系統的に学べるように工夫されている。 ・高学年において、興味・関心をひく楽曲が豊富に取り上げられているが、リズム、読譜はやや難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現及び鑑賞、創作の活動が相互に関連を図っており、段階的に発展した活動ができるように教材の構成が工夫されている。 ・各学年の共通教材が「心の歌」としてまとまって表記されており、把握しやすい。 ・低学年では、リトミック的な要素をもった身体表現を中心とした教材が多く、楽しみながら活動できるように工夫されている。 ・巻末に、低学年では短い斉唱の曲、中学年ではリズムが高度な斉唱の曲、高学年では合唱曲や他国の言語の曲と発達段階に応じた教材が提示されている。
	○各領域、内容の分量及び配分には、どのような特色があるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年は鑑賞曲が多く充実している。 ・「音楽ランド」は曲数が多く、充実している。高度な合奏曲は音楽的能力の高い児童には興味深く演奏できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱、器楽、鑑賞の各領域がバランスよく配置されている。また、創作活動も各学年の発達段階に応じて無理なく配置されており、取り組みやすい。
4 表記・表現	○楽譜や歌詞の表記について、どのような工夫が見られるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・輪唱曲では、2小節ずつ段を区切っていて分かりやすい。 ・楽譜は低学年から五線譜が多く取り入れられ、読譜に慣れさせる工夫がされている。全体的に音符が細かく、情報量が多い傾向にある。 ・初めてへ音記号を扱う曲では、音域を広く扱っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年では五線譜よりも、音の高低やリズムが図や写真で視覚化した簡易譜を多く使用するなど発達段階を踏まえた楽譜を提示している。 ・色分けして縦書きの歌詞と楽譜を関連付けることで、歌詞だけではなく楽譜に親しめるように工夫されている。 ・リコーダーや鍵盤ハーモニカなどで演奏する箇所は、楽譜上に絵でガイドされており見やすい。 ・初めてへ音記号を扱う曲では、音符の中に階名が書かれているなど、読譜の難しさを軽減する工夫がされている。
	○説明文、挿絵、写真などの表記、表現についてどのような工夫が見られるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン性が高く、美しい写真が大きく豊富に使われており、演奏曲の雰囲気がイメージしやすいように工夫されている。 ・ページ右上に、題材名と共通事項が記載されており、指導のポイントがわかりやすい。 ・楽曲の歴史的背景や説明等の情報量がたくさんある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明の文字が大きく見やすい。ねらいに迫るために印象付けたい写真などを一目で捉えやすいように工夫されている。 ・表紙は、学年で学ぶ楽器や活動内容の絵が描かれており、一年間で何を勉強するのかが一目で分かる。 ・裏表紙には、各地の小学生が地域の祭りに参加したり伝統的な楽器を演奏したりする「祭りと楽器」の写真が全学年で掲載されており、全国各地で伝統をつなげようとしている子どもたちの姿を知ることができる。
5 体裁、使用上の便宜	○印刷、製本、紙質、文字の大きさ、使用上の便宜上等について、どのように配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・環境にやさしい再生紙と植物油インキを使用している。 ・色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮して作られている。 ・カラー印刷や折り込みが多く、視覚に訴える力が大きい。 ・1～3年生まではセルシートも使われており、児童の興味・関心をひく効果が高いが、安全上の配慮は必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインを取り入れ、すべての児童にとって分かりやすい色づかいになることを目指して、色の見分けがつきにくい方々からの助言を得て編集・制作されている。 ・使いやすく学びやすいように、優しい色調のイラストや、白を基調とするすっきりとした見やすい紙面構成となっている。 ・巻末のまとめごと目次とリンクしてページの左端に縦の色帯で題材を示しているなど使いやすく工夫されている。 ・大きさや太さが違う文字は黒を基調にし、レイアウトに統一感があるため学習内容が分かりやすい。
	○目次や巻末資料など、使用上の便宜について、どのように配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年において巻末資料に「おんがくのもと」が掲載され、まとめや振り返りができるよう配慮がなされている。身につけさせたい音楽の共通事項を分かりやすく説明しているのがよい。 ・折り込みの資料が数多く入り、資料として充実しているが、低学年の児童には指導上、配慮が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目次は、題材・ねらい・教材が一目でわかるように工夫されている。 ・ふり返りのページがあり、1年間の授業内容が分かりやすい。